

## 食料・農業・農村政策審議会企画部会 議事概要

【日時】 令和4年4月21日（木）15:30～17:00

【場所】 農林水産省第2特別会議室

【出席委員】 大橋企画部会長、佐藤委員、中家委員、宮島委員、三輪委員、浅井委員、井上委員、大津委員、高槻委員、林委員、二村委員、堀切委員、山波委員、柚木委員、磯崎委員、（欠席：川上委員）

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書本文（案）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

### (1) 食料・農業・農村白書本文（案）について

（井上委員）

- ・ 特に白書に意見はない。みどり戦略での残渣の活用という文面を入れてもらい感謝。白書は全体的に良くまとまっており、活用方法をこれからも考えていきたい。

（林委員）

- ・ これまでに出された意見はもれなく反映されており、感謝。
- ・ 全体の構成について、この文書は令和3年度の動向及び講じた施策並びに4年度に講じようとする施策について報告を行うとあるが、昨年立案された令和3年度の施策にも案をつける必要はあるのか。また、動向編の目次に用語集も入れていただきたい。
- ・ 特集の今後に向けてのところで、「今後の持続可能な農業構造の実現に向けての大きな方向性を示す道標」とあるが、令和3年の政策の結果として政策の検証となるエビデンスがこの白書に記載されて、次の令和4年の立案につながっている。
- ・ どこに書くかは別として、動向編と施策編とのEBPMでのつながりが見えるようになると、読者としては政策との関係が分かりやすいのではないか。

（平野情報分析室長）

- ・ 令和3年度、令和4年度の施策部分につき、審議会で併せて内容を確認いただいているので、案を付けている。

（中家委員）

- ・ 白書は農業者に加え、消費者にも農業・農村の実態を理解いただく教科書のようなものであり、概要が重要。コロナやウクライナ情勢で食料・農業への関心が高まってお

り、国民の理解を醸成するチャンスという視点が重要。

- ・ 前回も申し上げたが、特集の農業構造の中身について、農地と人は一体的に扱った方が分かりやすい。
- ・ ウクライナ情勢もあり、輸入の状況に対する関心が非常に高まっている。詳細に記載すべき。
- ・ 昨年来、肥料、飼料等生産資材の高騰が続いており、農家にとって大変大きな問題。国民の皆様理解いただくためにも資材の輸入動向、課題等について、もっとページを割いてまとめて記載すべき。
- ・ 与党や農水省で食料安全保障の強化に向けた議論が行われている。当面の対策として、万全な営農の継続に向けた対策を措置いただくとともに、中長期の対策としては輸入依存からの脱却に向け、幅広く議論してほしい。

(柚木委員)

- ・ 前回の部会での意見が盛り込まれ、非常に分かりやすくまとまった。
- ・ 食料安全保障については、農業生産資材の確保も含め、国民的な認識の共有を図る上での記述がなされている。
- ・ 食料・農業への国民全体の関心が高まるなかで、今回の白書の持つ意味は大きく、その周知が重要。基本計画の中で食料自給力の維持が言われているが、食料安全保障について審議会を含め検討を深める必要。
- ・ 特集で農業の構造変化の状況が可視化されることは有益。現在国会で審議されている農業経営基盤強化促進法等の改正法案の中で、市町村において将来の農地利用の目標地図を含めた地域計画を策定することとされており、その前提として地域の関係者の話し合いが重視されている。そのような話し合いの場で白書が活用されるよう、情報発信が重要。
- ・ みどり戦略については全体的な意義、生産から流通・消費に向けての取組、求められる行動変容が記述された。これを契機に、具体的な取組に我々も含めてしっかり臨んでいく必要。
- ・ 次回以降の対応として、今は農業・農政の変革の時代であるが、市町村を始めとする農政の推進体制に課題が出てきている。その状況について、白書において実態を把握し、推進上の課題について深掘り・整理する必要があることを提案する。

(二村委員)

- ・ 前回の意見について改善いただき感謝。

- ・特集の冒頭に GDP に占める割合が1%程度という記述があるが、前回部会での他委員からのご意見からすると、この部分は日本経済の中で農業自体が持つ重要性を示すことが趣旨かと思う。農業の位置付けを客観的に表す数値が他にあれば併記するか、文の順番を変えるなど書き方を工夫することにより、農業が産業として重要な役割を果たしていることを最初にはっきり述べる形にしてはどうか。

(宮島委員)

- ・委員の意見を網羅いただき感謝。多数の表の掲載やSDGs、QRコードにより、更に深く知りたい人にとって辞書にもなるような中身となった。ジュニア白書について記載があることも有益であり、いろいろな形で農業白書を分かってもらうことが重要。
- ・前回もHP内で誘導の工夫があり、知りたい人への誘導には良かったが、そもそも農林水産省のHPに来ようとする状況を作ることが重要。農水省はBUZZ MAFF等で広報に関し他省庁より先行しているが、例えば農地バンク等十分知られていない政策も多く、見ようとする人を増やすフックが必要。具体的には、他の媒体を見ている人、大学の農学部の人、副業で農業に関心を持った人、家庭菜園を始めた人等の関心を引きよう、それらの人の目に触れられるところにリンクを張って理解してもらうことが重要。

(堀切委員)

- ・この白書はグラフや絵を多用するよう工夫され、読みやすいものになったのは間違いない。良いものができても、国民の目に触れないと残念なので、これから発信の仕方に工夫が必要。委員の意見の集約に加え、白書を読んだ国民の反応もモニタリングして次の白書に活かせば更に良いものになると考える。
- ・ウクライナ情勢は早く収束することを祈るが、資源のない日本が危うい立場であることが意識され、穀物、原料、エネルギーの価格が上がり、生活が大変であることを国民が感じている。国民一人一人が日本の食料自給率に関心を持って、食料や農業のことを真剣に議論する機会にできれば良い。

(山波委員)

- ・意見を入れて白書をよくまとめていただいた。様々な場面でコラムや事例、QRコードを入れて見やすいものとなった。
- ・特集の今後に向けてのところで、65歳以上の農業従事者の役割も引き続き大きいとあり、人手が欲しいということだと思うが、農業のデジタル化、スマート農業を進めて

いく上でも、人・農地プランの目標地図を作る、地域できちっと話し合いをしなければならぬということが出てくる。そのことを絡めて、担い手の経営が成り立つような規模拡大・集約と、基盤整備も大事だというような文言を盛り込んでいただきたい。

#### (大津委員)

- ・白書として見やすいものとなり、また、意見も取り入れられており感謝。
- ・農業の置かれている位置付けについては、GDP の割合が1%と小さいことが強調されて見える。連日の報道で世界の食料事情を不安に思う人も多いと思うので、農業はGDP の割合としては少ないけれども大事なものとして、この白書が、現状を把握し、今後の取組の指針になれば良い。
- ・白書を俯瞰し、農業者としては、49歳以下の農業従事者が11%しかないことについて、厳しい状況にあると思った。総括をした部分は良かったが、需要に応じた生産の取組が重要との記述については、別の箇所には書かれているが、生産者からすると生産者が安心して作れるように需要を喚起するという視点も重要だと思った。
- ・「変化」のところに「シフト」と日本語のルビがあるのと同様に、「サプライチェーン」にも「社会」など日本語のルビがあるとよい。
- ・資材と飼料の高騰による打撃について、一経営体当たりの経費、資材費が上がっていることがもう少し深掘りされれば良いと思った。

#### (三輪委員)

- ・これまでの議論を反映いただき、読みやすく、よりメッセージが伝わるものになった。
- ・様々な政策があるため、今後農業を学びたいと思う人や改めて農業政策を学びたいという生産者にとっては、内容が断片的に見えてしまうおそれ。QRコードで上手く誘導しているが、例えば、ウクライナ情勢下での肥料の輸入リスクと化学肥料の使用を低減するためのみどりの食料システム戦略、飼料価格の高騰と稲作における飼料米生産の推進等、政策の間にクロスしている部分があるのではないか。それぞれの施策がリンクしてトータルパッケージとなっていると思うので、相互のリンクを明示的に記載すると分かりやすいのではないか。

#### (佐藤委員)

- ・委員の多くの意見を反映していただき感謝。
- ・今回の白書は、今まで携わってきた白書の中で一番見やすく、出来栄が良い。
- ・農地の関係では、人・農地プランをどのように進めていくか投げかけるような記載が

あれば、現場でのバイブルのようなものになるのではないか。

- ・ウクライナとロシアの問題が我々の生活全般に影響が出てきている中で、東日本大震災、コロナ、ウクライナと続き、このような時だからこそ消費者、生産者を含めた国民全体で現状を見直す機会。今回ウクライナ関係の内容を入れていただいて良かったと思う。

(浅井委員)

- ・白書として大変読みやすく、網羅された取りまとめとなっており、感謝する。
- ・白書は過去から現在へのシフトをきちんと評価しており、その先がどのようになるのかイメージが膨らむものだと改めて感じた。一方で、基本計画は現在から未来の計画を描くものであり、楽しみにしている。
- ・中家委員からも発言があったが、農地の記載が少ないと感じる。経営している農業法人では、地域での農地集積が上手くいかないことが課題となっている。
- ・平成 28 年に実施された相続未登記農地の実態調査の報告書を読んだが、登記名義人が死亡している農地が 47 万 ha、相続未登記のおそれがある農地が 45 万 8 千 ha と、合わせて全農地面積の約 2 割を占めるという内容だった。
- ・農地を相続したくない人もおり、その中には重要な場所にある農地もある。政策を立案する際は、作る人と食べる人の 2 種類のプレイヤーを中心に議論されていると思うが、農地を守る人（農地オーナー）も意識して広報や情報発信をしていくことが重要。
- ・41 歳の自分が平均年齢 75～80 歳の農地オーナーに農地を貸してもらいたいと話しても、ジェネレーションが違いすぎて話が進まない。
- ・白書の作り手は当然農業に関するリテラシーが高いが、リテラシーが高くない食べる人や、平均年齢が高く、農業に関心がない農地オーナーにも農業のリテラシーを持ってもらうことが重要。

(高槻委員)

- ・審議会での指摘は全て反映されており、大変な御苦労だったと思う。感謝。
- ・白書には本文、目次、図表、コラムといった要素があるが、食料・農業・農村にとどまらない話題にはコラムが活用できると理解している。今後の白書の中では、広がりがあるような話は、コラムで取り上げると分かりやすくなる感じた。
- ・色使いも考えられており、目に優しい色を選ばれていて良い。

(磯崎委員)

- ・資料をざっと見させていただいたが、大変分かりやすい。
- ・白書は、以前は網羅的なものだったが、今回はトピックスから始まり、どこにフォーカスしているのかメリハリがしっかりしている印象。
- ・コロナだけではなく、地政学上のリスクが大きくなっている中で、食料のコストが上昇しており、最新のデータに触れられているのは良い。
- ・食料安全保障の話になるが、これから食料は各国で取り合いになるため、国内の重要な品目の自給率を上げることが重要。
- ・例えばビールではホップを全て輸入した方が安くなるが、自社では国内で生産されるホップの80%を使用している。自分たちで育て、育種し、収穫しなければ、ホップは完全に輸入となってしまう、ブラックボックス化する。価格が安かったものが今、非常に高くなっており、食料の自給率を一定程度守るということは大事だと感じている。
- ・私事だが果樹園を経営している。高齢化で離農する人が増えている一方で、農地を借りたいと言ってもなかなか貸してくれない中、今まで見たこともない害虫や動物が出るようになっており、このままだと日本の農業は廃れてしまう。白書の議論とは関係ないが、農業にとって農地は重要であると考えている。

(平野情報分析室長)

- ・林委員から御指摘のあった用語の解説に目次を付けることについて、閣議決定の際には毎年付けているが今回は作業が間に合わなかった。動向編と施策編のつながりが分かるようにという御指摘については、記載場所や記載内容を改めて検討したい。
- ・中家委員からは、概要が重要と昨年度も御指摘いただいた。概要について、本文を踏まえて整理し、白書を公表する際には農水省のHPに併せて公表する予定。これまでも、説明会などの際に、概要を活用しており、今後も重視したい。また、農地について触れられていないという御指摘については、テクニカルなことを述べると、2020年農林業センサスでは、「経営耕地面積」として集計されており、特集編の図表の特6で紹介している。また、2章4節では、別の統計データを使っている。整理が必要なので、担当局と相談したい。
- ・二村委員、大津委員から御指摘のあった特集のリード文の入り方については、併記できるデータがあるかどうかを確認の上、順番の入れ替えなどで工夫したい。
- ・大津委員から御指摘のあったサプライチェーンの日本語については、ここでは思いつかないため検討したい。
- ・三輪委員から施策のリンクを明示すべきという御意見があった。トピックス1の最後に関連する章節を記載しており、このような工夫をしていきたい。

- ・大勢の委員から、資料が見やすくなった、QR コード、SDGs マークの活用、色使いについて言及いただいた。これらは私だけの工夫ではなく、室員全員の取組であり、お褒めいただき大変ありがたく思っている。作成した白書は、農業者のみならず、消費者といった国民各層に広く PR していきたい。
- ・宮島委員におかれては、ジュニア白書について触れていただき感謝。
- ・堀切委員からは、白書を使った人の反応をモニタリングが大事との御意見があった。今回の令和3年度白書の作成に当たり、昨年度白書の配布先や自治体、大学等の説明先にヒアリングを行い、その意見を踏まえて内容や QR コードの工夫をしている。広報と併せて地道に工夫していきたい。

(松尾経営局審議官)

- ・浅井委員から御指摘のあった所有者不明農地について、誤解を招かないように補足させていただきたい。農地を子供に相続する際に正しく登記がされていないものが2割あったということであり、その農地はきちんと使用されている。遊休農地はごく一部で、ほとんどが登記上の問題である。登記されていない農地は農地バンクに貸す際に不便であるため、平成30年に法改正を行い、そのような農地も簡易な手続きで農地バンクに貸すことができるような制度を設けており、今後も農地集積・集約化の促進にしっかり取り組んでまいりたい。

(林委員)

- ・白書については、大変素晴らしいものをまとめていただき感謝。
- ・ただ、白書は事実を寸止めにしている印象。ビビッドにならないように淡々と書いているが、農地集積率など目標80%は現状の進み具合では到底達成できないことが見えている。
- ・一方で、EBPMの観点からは、毎年、来年の政策立案のために深刻な状況であるということ「道標」というより「警告」としてしっかりまとめることも白書とは別途必要。
- ・ウクライナ情勢等を受け、国民は食料・農業の重要性を感じているが、国民は忘れやすく、メディアは一過性ですぐに取り上げなくなるので、白書は事実や統計に基づいて、現状の深刻さを訴えることができれば意義深い。

(大橋企画部会長)

- ・300ページを超える白書をまとめていただき感謝。毎年頁数が多いと言われていたが、

過去のものとは比べるとかなり圧縮された。委員の意見もしっかり反映していただき感謝。

- ・企画部会で過去、白書の議論をしている中で、政策立案に関わる論点をいただいていたが、その意見はどこにいったのかと思う。企画部会は基本計画の見直しの際には基本計画の議論をする機会があるが、それ以外の時は白書が代わりをさせられていると感じている。本来、白書では現状を確認し、その後、基本計画を含めてフォローアップすべきと思う。委員から基本計画のフォローアップについての意見もいただいていたが、白書は基本計画をフォローアップするものではない。ウクライナ情勢など激動する情勢を受け基本計画をどうするかなど、どこかでしっかりとフォローアップすべき。行政の無謬性で無理やりこじつけ、基本計画の議論は5年後でなければならないというのは不幸だと感じている。

- ・EBPMの話もあったが、施策についてエビデンスベースに基づいた議論を企画部会でなくともどこかでしっかりとして、我々の意見が受け止められたという形を作り、政策立案の議論につなげていただきたい。

- ・予定の時間となったので、この辺りで締めさせていただききたい。白書の案文については、本日の議論やその後の情勢変化等を踏まえての調整が必要となる。今後の調整と修正については、部会長に一任頂くこととし、事務局案を企画部会として承認してよいか。

（「異議なし」の声）

- ・本企画部会の議決については、審議会の議決とすることとされている。白書については、ただいまの承認をもって、後ほど食料・農業・農村政策審議会として、農林水産大臣に答申したい。

（以上）